



PURE/THAI 発

発行 96 号 2019 年 1 月 1 日 発行

発行者 寛庵 泰

EXCITING/Thailand News

Relaxation/Place (くつろぎのいおり)

422/33 Soi 7 Chiangmailand T. Changklan A. Muang Chiang Mai Thailand 50100 Mob : 081-205-0689 e-mail : h2.kanang@gmail.com

Wake up ! の年

新年明けましておめでとうございます。元号の改まる年を迎えました。新元号の時代が、日本再生の時代になってほしいと祈念して止まない人は少なくないでしょう。八百万の神の一員である善男善女の神社・仏閣への参拝風景は、日本の風物詩としても清々しさを感じます。この清々しさが日本人の宗教観であり、宗教の実践でもあります。

何れかの宗教組織に属さない人を『無宗教』と決め付ける偏見こそが、既成宗教の驕り高ぶりであって、自然の驚異を年々歳々肌身で感じ、恐れおののき。四季折々の自然の恵みに喜びと感謝の気持ちが育まれて、自然と備わった宗教心・宗教観からの素朴な実践で充分なのが日本人の宗教です。だから、神社で拍手し、頭を下げることに抵抗はないし仏殿や仏像・墓石・慰霊碑に向かって合掌し、思いを致す事が自然に出来るのだと思っています。

日頃の不信心(ご先祖・先人・英霊に護られている事を蔑ろにしている事)をお詫びし、新年を迎えることが出来た事を、心より感謝すると共に、尊崇の念を持って、初詣に出かけましょう。

そういう意味で、私は、神社仏閣などは、お願いしに行く所ではない(お詫びし、感謝し、尊崇の念を伝えに行く所だ)と思っています。家に、仏壇や神棚があれば同様です。ちなみに、Pure/Thaiの入り口正面には、仏壇があり、セラピスト達は入店・退店時には参拝しています。



日本人は無宗教？ 実際のところ



無宗教と言われている(思い込んでいる)日本人が、無宗教でない事と、参拝の意味や心構えに多少でも変化が生じれば、日本を取り戻すことの大切さが理解されると思います。この事が分らないと、何で日本を取り戻さなければならないのか？いつの時代まで遡った日本を取り戻すのか？などという空虚で見当外れの取り戻し論に終始してしまいます。

由々しき事は、平成時代が終わろうとしている今、年末年始大廉売の如く、年度内にディスカウント・ジャパン法案が画策され通過していることです。『安くしなければモノは売れない』『安い事は良いことだ』『今だけ・金だけ・自分だけ』の、デフレ脳がもたらした病的な発想が、ついには政府主導で日本国まで安売りし出した事だ。『自由で開かれた市場』『世界から有用な人材を…』等と、美辞麗句やキャッチフレーズで国民を騙し、大店法でシャッター街を作った反省もなく突進している。

種子法廃止・移民法・漁業法・水道法の導入のどこに、清々しさがあるでしょうか？清貧を是とする国民が累々として積み上げ、守って来た文化・習慣・伝統を打ち砕く(取り返しのつかない日本づくり)法案がドンドン通過し、施行されようとしているわけです。どの口が日本を取り戻す・戦後レジームからの脱却と云ったのでしょうか？『騙された日本国民がバカなのねー』では済まされません。…では、何をするか…？(詐欺師を騙して、身包み剥がす…しかないでしょう)

これは、私が日頃云っている事で、フーンと聞き流しておられたでしょう。…では、どうやってという、Know/Hawlは、非公開です。…では不親切なので、参考事例を挙げましょう。米国のトランプ大統領は、政治家である以前にビジネスマンです。彼のディールは、北朝鮮の金正恩・中国の習近平も震え上がるほど強烈な押し込みだという事は周知の通りです。両者ともに、親の七光りと、立ち回りで権力の座に就いただけのひ弱なりーダーです。(そう云えばどこかの国の首相も同じ境遇です)ひ弱・脆弱な人間は、卑劣・非道な事を難なくやってのけることも共通点です。一見強そうに見えても、実は軟弱・臆病者であるともいえます。



一匹狼で、何度も倒産を繰り返し、這い上がって不動産王の名声を博し、大統領にまで成り上がった人とは比べ物に成らないのは明らかです。今回、90日という『休戦提案』を習近平に飲ませたのも、『…どうせ出来っこない。答えを持って来たら、不十分・答えになっていない。』と、難癖をつけ、更なる圧力をかけるに決まっています。これが、詐欺師を騙して(猶予を与えた振りをして)身包み剥がす手法の典型例でもありますから、成り行きに注目しましょう。

それと、トランプ大統領の褒め殺しトークにも注目しておく必要があります。これは、セールストークの基本であって、本音を聞きだす(引き出す)前提として、必須のトークだからです。その瞬間の反応をどう捉えるかが勝負です。簡単な例を挙げると、「いやー！お久しぶりです。お元気そうで何よりです。顔色も良いし、肌つやもピカピカだし、健康上何の問題もなさそうですね。」と、切り出すと「いやー、見た目にはそう見えても、あちこちガタが来てしまってますね…」と、本音が漏れてくる…。そこから勝負！ Wake Up ! 平和ボケしている場合じゃない。



あまた有る 欠陥の追放 から

『寄る歳なみ』のせいにしながら、実は、物忘れが激しいのは今始まったことではない…。という人も少なくないでしょう。ご他聞に漏れず、私の物忘れ、名前忘れ、(記念日などの)日付忘れは、若い頃から旺盛だったのは、馬耳東風で聞いて居たからに他なりません。反面、心に刻まれた記憶(物事や文章など)は鮮明に覚えています。

という事は、記憶力と暗記力は違うということに気が付きます。気が付いてもどう違うのかは、よく分からないので、ネットで検索したところ、以下2つの情報がありましたのでご覧下さい。

<https://anki-study.com/how-to-acquire-memory-ability-and-recall-ability/> 記憶と暗記

https://www.lifehacker.jp/2017/04/170428_book_to_read.html 記憶力≠暗記力

学生時代を思い起こせば、年代や人物・出来事を正確に丸暗記しなければならない歴史は、苦手科目でした。反面、口調の良い古文や漢文などは、自然と脳裏に焼きつき好きでした。自然や宇宙など、移り変わりの変化や神秘性に興味を感じて、理科系の生物や地学などは好きな科目でした。数学は、難解な問題を解くクイズのような感覚で捉え、気持ちを数学脳に切り替えて挑んでいたように記憶しています。ですから、受験勉強の時には、地理・歴史の後に数学はダメで、数学の後に丸暗記ものは全く記憶に留まらない状態で、科目の内容よりも、頭の切り替えに苦勞したことを思い出します。丸暗記が得意だったエリート達が、社会に出て偉くなり、何らかの事件に関与した時の常套句「記憶にございません」が納得できるでしょう。



誰が言ったか知りませんが、「大学とは、2年～4年かけて受験勉強で覚えた事を遊びながら忘れさせてくれる学校…」は一面の真実を語っていて、丸暗記ものは、欠片すらも覚えていない方が、覚えているものより多いのではないのでしょうか。確かに、日常生活に於いて、微分/積分や円の証明、歴史上の事件などは必要ありませんから、きれいさっぱり忘れ去っても、問題ないでしょう。

逆に言えば、必要なものや感動したものなどは覚えていて、不必要なものや印象の薄かったものなどはドンドン忘れていくから、新しいものが覚えられるとも云われています。ところがドッコイ！ 寄る歳なみのせいか？ 元々のせいか！ もの忘れが激しくなっていませんか？ 私は元々のせいで、もの忘れが頻繁です。最近までは、ATMで現金を引き出した時、カードを引き抜くことを忘れ、何度も飲み込まれた事があります。管轄の銀行に行って返却してもらいましたが、飲み込まれて保管されているカードが束のようにあって、同じような人は少なくないんだと苦笑しました。

今では、ATMの前に立った段階で、「バカ者よ、カードを忘れるんじゃないぞ！」と自分に言い聞かせながら次の作業に入るようにしています。その昔、未確認＝未確人(確認を怠る人)に指差し確認・発声確認を指導していた張本人で、自らが今、バカ者の本性を現しています。

元々がバカ者ですから、大して傷つかず、部下や業者に平然と『未確人の追放！』等と豪語していた事を思い出します。彼らは大いに傷ついたかも知れません。今風の言い方をすれば、パワハラだったかも知れません。(恨みを晴らしたかったら、チェンマイにいらっしやい)

こればかりではなく、各人各様に人には云えない欠点・欠陥は持ち合わせているもので、覆い隠したところでポロポロと露呈してしまうものでもあります。なれば、積極的に晒さないまでも、自分自身しっかりと未確人である事を再確認し、心の中で指差し確認を実行しましょう。

もっと甚だしい例を挙げると、太古の昔から人は夜空に浮かぶ美しい月を眺め愛でて来ました。地球(自分)と月(人)は、いつも表側の顔(姿)しか見せない。その実態が明らかにされた。



元祖:「記憶に…」



フルムーン



月の裏側の画像 1



2007年に打ち上げられた、月周回衛星『かぐや』から送られて来た画像に、驚愕された方も少なくないでしょう。有人宇宙飛行士1号のガガーリン少佐の名言「地球は青かった…」。地球の美しさと共に月も美しかった。小説や唄の題材にもなり、人類憧れの的だった月の裏側が、これ程までに惨憺たる光景だとは誰も予測していなかったでしょう。(下記動画をご覧下さい)

自分自身を含め、人や社会の裏側の醜惡な実態として見る事も出来るでしょう。その事実を、月の裏側の画像が教えてくれたと受け止めたら、今、起こっている世界の様々な事件や政治・経済・社会の見方まで変わってくるし、腑に落ちるものではないのでしょうか。

腑に落ちた人のみ救われる。自分とは全く関係ない他人事と捉えている人は、救いようがないから、月の砂漠の海に埋没してもらいましょう。あまた有る(アバタ有る)欠陥の追放には、先ず自分のバカさ加減を(人知れず)しっかり認識することから始め、自らに言い聞かせ、清々しく美しくあるためには、何をどうしたら良いかを考え行動しましょう。ヒント: 月は何故輝いている？

<https://www.youtube.com/watch?v=TwaRntM5TI>

動画: 月の裏側

否が応でも

不定期に開催される中学時代のクラス会の通知が送られて来ても、日本国内や近郊に在住している訳ではないし、『どうしても…』という切実感もないから、毎回不参加で失礼している。押しなべて、切実感や切迫感が希薄だと、人は動かない。クラス会名簿を見たら、外国在住者は私ひとり。日本には、外国人移住者がワンサカと入って来る。

タイに来て、一番驚いたのが救急車の表示でした。日本の救急車は、〇〇消防局と表示されていますが、タイは前面・側面ともAmbulance=(救急車)の表示であり、太文字の朱記でUnbalance=(アンバランス)をイメージしました。怪我や病気で体調のバランスを崩して危険な状態になっている人が乗っているから、急いで走っているという実感が伝わりました。



日本の救急車乗務の救急隊員や、レスキュー隊員の練度の高さは、世界に誇れるものだと云う事は周知の通りです。普段は何でもなくとも、突発的な事態に遭遇しバランスを欠いたらAmbulance=救急車のお世話にならなければどうにもならない。(6年前の12月、交通事故でお世話になりました。詳細は発刊29号に記載)

国民も自治体もどうにもならない状態になってから、外国人移住者を大量に導入すべきではなかったと言っても、もはや手遅れ。国民健保は使われ放題。人手余りになれば、生活保護費が膨大に膨れ上がる。安い人件費を維持したい魂胆から、人手不足にかこつけて外国人労働者を移民化させる法案を可決させた現政府・政権は、亡国政権以外の何ものでもない。



騙し、ごまかし、大嘘つきの財務省のエリート官僚が、何で(ショボイ)GDP成長率・インフレーターゲット2%をクリア出来ない(しない)のか?その気がない。能力がない。(実しやかに囁かれている米国や国際金融機関からの圧力に屈している。噂も含めてある事)も確かだろうが、一番頭が痛いのは、それでも毎年少1兆円づつ増えていく年金支払いを更に増やしたくないというのが、本音ではないかと思う。

今の年金制度は、物価スライド制になっていて、指数が下がれば支給も下がる。上がったなら上げなければならない。せっかく景気回復し、インフレーターゲットをクリアし、税収が上がっても、「年金に持って行かれてはクソ面白くない」「我等官僚の裁量で、遣いたい放題にしたい」からというのが真実ではないかとも思う。(だから、『高齢者は姥捨て山に捨ててに限り』=身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ論を自ら実践している)何れは見捨てられ、見放され、ふんだくられるくらいなら、自ら出て行って、温暖な環境で、心身の豊かさを満喫すべきだという論でもある。この考え方は、今も変わらず固辞しているが故のチェンマイにいらっしやいでもある。

否が応でも、日本人であり日本国民である事は否定できない。払うべきを払い、受けるべきものを受け取るのは当たり前で、政府の詐欺商法的な場当たり政策に追従し迎合する気など更々ない。権力者などは、一時的な権勢を振るおうとも、その座を降りたら只の人でしかない。未練たらしく元〇〇などと云ったところで、威光すら光らない。過去の役職をズルズルと引きずっている、みすばらしい高齢者が巷に溢れかえっている。(チェンマイにも徘徊している)

PureThaiマッサージ店の常連客で、事務系の会社の役員をされている女性の方から、「大学時代に日本語を選択し、バンコクで日系企業に勤めたことがあります。日本人の友人も何人か居ますが、何年も日本語を使わなかったため殆ど忘れましたが、もう一度勉強したいです。教えてもらえますか?」というリクエストがあり、喜んで受けました。条件として、金品は一切受け取らない。私の趣味に付き合うつもりで受けて下さいという了解のもと始めたばかりです。

2~3年前に中・高・大学生にひらがなの読み書きまでを区切りに、教えたのとは違った感覚で進めたいと思っています。ですから、日常的な話や、趣味の話などが主体になります。



日系企業に勤めていてどうでしたか?と聞くと「とても厳しくて、大変でした」と言う答えで、何が厳しかったですか?に対しては「上司と時間」でした。更に「上司は、退社時間に近づくと、新しい仕事を持って来て、これをやって下さいと言われる事が多くて大変でした…」即座に、私は「その上司は、バカだったから大変な思いをさせられたという事で、時間に厳しくないルーズな上司だったということです」と応え、「本来の日本人の厳しさは、約束と時間は必ず守るという事で、イレギュラーな事態には、相手の了解を取り付けるというのが日本のルールです。」と話しました。

たどたどしいニホンゴでも、このレベルの話が出来る相手ですから、楽しみです。未だに、上から目線で外国人を使おうなどと考えていたら、軽蔑され、逆襲の痛手を覚悟しなければならない時代でもあります。大量移民政策のリスクでもあります。

仕事も勉強も遊びも散策・探索もひっくるめて、趣味化して愉しんでしまう性格ですから、些細な会話から、大きな問題が見えて来るものでもあります。



目覚めたらアクティブに

目覚めても、死んだ振りを決め込んでいる人は放って置いて、熊にでも喰われてもらいましょう。(熊に出会ったら死んだ振りをしていれば助かる、というのは嘘だという話です) 眼前に熊が現れたらどうするか、周辺に熊が出没していることを事前に知っておく必要もあるでしょう。豹変などと云う化け物が、案外すぐ隣に居るかも知れません。

豹はねこ科の動物ですから、普段は猫などで声で近寄ってきます。安易に手など差し出したら、狭い額にしわ寄せ、鋭い爪に引っ搔かれ、思いっきり噛み付かれるでしょう。(読者諸兄の満身創痍の経験談を聞きたいものです。私は猫騙しの術を心得ていますから、無傷です。)

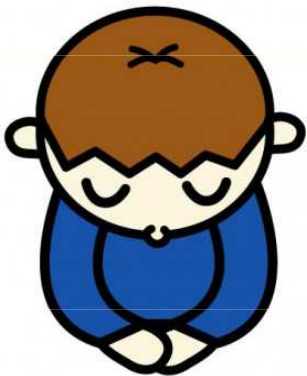


新年早々、祈り方の心構えや、自分だけでなく、未だに目覚めない人をバカ者扱いにしたり、相変わらずの政府批判満載で、新年号のどこがおめでたいの?と、食傷気味に成られたかも知れません。これに輪をかけて、いつものオオカミ少年ならぬ、オオカミ爺さんの叫びなど聞きたくもないでしょうが、止むことなく空襲警報は鳴り続けます。



去年の7月で、Pure/Thai を開業して区切りの10周年を迎えましたが、次の10年に向かって、一旦閉店しようと考えています。(時期は今の処未定ですが、早ければ6月までに、遅くとも年内中を考えています。) 『終わり即、次の始まり』の準備段階に入っています。

『終わり即、…』



ご愛顧頂いた多くのお客様には、大変申し訳ないのですが、軸足はチェンマイに置きながら、より日本との関わりを深化させたい思いに駆られての事です。この儘では、完璧に『取り返しのつかない日本』『衰退する日本』『疲弊する日本人』の様子を眺めているだけに終わってしまう危惧を拭えないからでもあります。

「こんな日本に誰がした」と、恨み節を唱え、犯人探しをしたところで埒は開かない。バカな国民の選択によって、現状を招いた責任の一端を、自分自身も担っている。何の力も、カネもない、あるのは暇だけじゃないか!と、鼻で笑われ一個人に何が出来るのか?と、云われても、先人(私より先に亡くなった、同僚・後輩・仲間たち)は、私と一緒に仕事をすることに喜びを感じてくれた。癌病床についていた同僚は「早く帰って仕事がしたい…」と、言い残して逝った。

縁もゆかりもないインパール作戦で亡くなられた英霊達の声なき声『こんな日本にするために命を投げ打ったんじゃない。日本を取り戻すのは、生きてある君たちに課せられた使命だ』が聞こえる。これらの声に支えられれば、やれること、出来る事が幾らでも出てくるでしょう。たまたま、見知らぬ人のブログを見ていたら、5年ほど前の終戦記念日の慰霊祭で撮られた集合写真に私が写っているものが掲載されていました。(左端最後部 二人前の白髪の方は故ブンスワームさん)



第二次世界大戦の当時、ムーンサーン寺院は日本軍の野戦病院として重要拠点となり、食糧や武器などの保管場所にもなりました。寺院はビルマ戦線から負傷兵や病兵が運び込まれ、毎日のように1〜2名の方がお亡くなりになられ、そのご遺体はチャンクラーンとハーイヤーの火葬場で荼毘に付されました。多くのご遺体がタノム氏(地元ではチャンクラーンのタノムで知られる)のご尽力により、寺院から牛車や荷車で火葬場へと運ばれました。

戦後、1978年から79年にかけて遺骨収集活動がチェンマイで行われました。当時を知る関係者の証言や資料から調査は進められ、488柱のご遺骨が発見されましたが、どのご遺骨も完全な形では見つからず、頭部、肩部、脚部の一部分だけの収集しか叶いませんでした。

忘れてはならないことは、まだ何百もしくはそれ以上のご遺骨は見つからないままであることです。火葬し切れないままチャンクラーンやハーイヤー付近、または当寺院の周囲に埋葬されていると言われていますが、建物も増えた今日の町並みは当時から一変してしまい、遺骨収集も困難な作業となっています。

祖国への帰国が叶わず、この地に眠る戦没者の供養として、当寺院では毎年8月15日に慰霊祭が行われ続けています。



さあ！今年はどんなアクションからスタートしますかな？アクティブに、ポジティブに。